

2021年度 日本工学院専門学校											
音響芸術科											
サウンドシステム2											
対象	2年次	開講期	前期	区分	必修	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	川澄 伸一			実務 経験	有	職種	レコーディングエンジニア				
授業概要											
<p>1年次の音響基礎をベースに音響やシステム関連の知識を広げていくことが目的。近年のレコーディングはコンピュータによるDAW化によって手軽なものとなり、簡単な操作ですれば何かしらの音の変化を起こすことが可能となった。しかし、闇雲に音をいじる事は完成時に取り返しの付かない結果を招くこともある。目的とする音作りへの到達は音の現象を正しく理解し、効率的にパラメーターをいじることによって速度アップが可能となる。そのため音響基礎の理解を目的とする。</p>											
到達目標											
<p>電気の基本的理解を元に交流である音の理解を広げていく。またアナログ機器とデジタル機器を平行して学習していくことにより、音の処理を基本的な部分から理解し、音の変化の仕組みもイメージできるようにする。音に関する単位や様々な基本的な数値についてもしっかりと記憶していただき、プロフェッショナル・エンジニアとしての知識を豊富にしていく。近年のデジタル化により音の記録フォーマットも増えているので、これからの新しい技術に対応していくためにもアナログ的な基本技術も理解していくことを目標とする。</p>											
授業方法											
<p>資料を適時配布し、自分で完成させるワークタイプのものも配布するが、各自で音響関連の用語集を持参することが望ましい。オンライン講義形式の授業である。前回までの各項目を理解した上での次項目へ繋がるため、復習も随時行いながら進行する。映像、音響資料も多用する。</p>											
成績評価方法											
<p>試験・課題 80% 試験と課題を総合的に評価する。 平常点 20% 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。</p>											
履修上の注意											
<p>この授業では、音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。</p>											
教科書教材											
必要に応じて適宜資料を配布する。											
回数	授業計画										
第1回	音楽関連業界の現状：ガイダンスと1年次の復習										
第2回	音について再確認：周波数、音色、レンジ、特性、音に関する効果各種、定位、位相 について理解する										
第3回	デジタルオーディオ1：＜Pro Tools＞基礎1 楽曲編集 ができる										
第4回	デジタルオーディオ2：＜Pro Tools＞応用 Pro Toolsでのミキシングができる										
第5回	電気回路1：直流・交流・電力・などオームの法則復習、海外の電源について理解する										
第6回	電気回路2：図記号・カラーコード、オーディオパーツについて理解する										

2021年度 日本工学院専門学校	
音響芸術科	
サウンドシステム 2	
第7回	電気回路3：発電所から家庭まで。電磁誘導の仕組み、インピーダンスについて理解する
第8回	エフェクター基礎1：ProToolsプラグインについて解る
第9回	エフェクター基礎2：実践的なエフェクター使用ができるようになる
第10回	コンソールの概要1：フェーダーの種類、構造、カーブ、VCAについて理解する
第11回	コンソールの概要2：パンポット、バスの構造、使い方が解る
第12回	レコード・アナログ機器：RIAA特性、アナログ機器の特性を理解する
第13回	デジタルフォーマット：様々なフォーマットの違い、圧縮技術、ハイスペックオーディオについて理解する
第14回	各種パッケージ：各種メディアパッケージの規格（CD, DVD, Blu-ray）について理解する
第15回	前期まとめ：全体の確認と復習